

仙台市文化財調査報告書第496集

日向遺跡

第1次発掘調査報告書

2022年3月

国土交通省 東北地方整備局
仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第496集

ひなた 日向 遺跡

第1次発掘調査報告書

2022年3月

国土交通省 東北地方整備局

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

仙台市内には旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残っております。これらの一つ一つは、先人たちが残した貴重な文化遺産です。

日向遺跡は仙台市の西部、青葉区作並（旧宮城町）地内に所在する縄文時代の遺跡です。

本報告書は、国道48号線拡幅工事に伴い実施しました、日向遺跡第1次発掘調査の成果をまとめたものです。

文化財は、地域の歴史を将来へ伝えるために守るべき大切な財産です。先人たちの残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちの使命であると思います。それは地域が育んだ文化を語る上で歴史や文化資源がその根底をなしているからです。つきましては、本報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

令和4年3月

仙台市教育委員会
教育長 福田 洋之

例　　言

1. 本書は、令和3年度日向遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書である。
2. 本書の本文執筆・編集は柳澤楓が行った。
3. 本発掘調査及び本書の作成に際し、国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所より協力を得た他、事務所用地については、松下健氏のご協力を得た。
4. 挿図・写真図版の作成、遺物の整理作業等については、柳澤楓・斎野裕彦・向田文化財整理収蔵室作業員が行った。
5. 本書に係る出土遺物、実測図、写真等の資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 本文中の「日向遺跡と周辺の遺跡」及び「第1次調査区全体図」、「第1次調査区位置図」は仙台市発行の2千5百分の1都市計画基本図を修正して使用した。
2. 図中の座標値は世界測地系を使用している。
3. 遺構の略称は以下の通りで、遺構番号は通し番号である。
P : ピット　　SX : 性格不明遺構
4. 遺物の略称は以下の通りである。
A : 繩文土器　　K : 石器・石製品
5. 土色については、「新版標準土色帳」(小山・竹原 1999) を使用した。
6. 遺物写真の縮尺は遺物図版に掲載した同一個体のそれに準ずる。

目 次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯と調査方法	1
第2節 調査要項	1
第3節 遺跡の位置と環境	1
第2章 調査結果	5
第1節 基本順序	5
第2節 発見遺構と出土遺物	5
第3節 出土遺物	12
第4節 まとめ	12

挿図目次

第1図 日向遺跡と周辺の遺跡	2
第2図 第1次調査区全体図	3・4
第3図 第1次調査区位置図	5
第4図 1トレンチ調査区平面・断面図	6
第5図 2トレンチ調査区平面・断面図	7
第6図 3トレンチ調査区平面・断面図	8
第7図 4トレンチ調査区平面・断面図	9
第8図 5トレンチ調査区平面・断面図	10
第9図 6トレンチ調査区平面・断面図	11
第10図 出土遺物	12

写真図版目次

写真図版 1 日向遺跡第1次発掘調査（1）	13
写真図版 2 日向遺跡第1次発掘調査（2）	14
写真図版 3 日向遺跡第1次発掘調査（3）	15
写真図版 4 日向遺跡第1次発掘調査（4）	16
写真図版 5 日向遺跡第1次発掘調査（5）	17
写真図版 6 日向遺跡第1次発掘調査（6）	18
写真図版 7 出土遺物	18

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と調査方法

本件は、国道48号線付加車線工事に伴い、令和3年2月2日付で国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所長より提出された「埋蔵文化財発掘の通知について」(令和3年2月15日付R2教生文第103-113号)により宮城県教育委員会教育長へ進呈)に基づき実施した。

今回の調査対象地は、対象範囲の幅が狭く高低差が6m程度ある斜面上にあり、隣接する国道48号線側は急な法面となっている。そのため調査前の現地確認の際に、入念に重機の搬入経路や調査区の位置を考え、現地の状況から木の幹や電柱などを避けながら調査可能な箇所で調査を実施することとした。

実際の調査では、木の幹が重機の進入の妨げとなることから、一部伐根を行いながら掘削作業を進めた。また、地形が国道側にやや傾いていたことから、ある程度土地をならしながら作業を行った。

遺跡内には、南西から北東にかけて沢があり、その沢を境に両側に斜面が存在する。今回は、その斜面を1区(山形側)と2区(仙台市側)に分け、それぞれに3箇所ずつ(計6箇所)調査区を設定した。重機により基本層I層を除去後、II層およびIII層上面で遺構の確認作業を行った。その結果、一部の調査区で、ピットと性格不明遺構を確認した。遺物は、4トレンチの基本層I層とII層の境目付近から縄文土器片が1点、5トレンチと6トレンチの間部分の基本層I層とII層の境目付近から石器(石鏃)が1点出土した。調査では必要に応じて調査区断面図、遺構断面図(S-1/20)を作製し、各調査区平面図の作成は電子平板システムを用いた。また、デジタルカメラにて記録写真を撮影した。

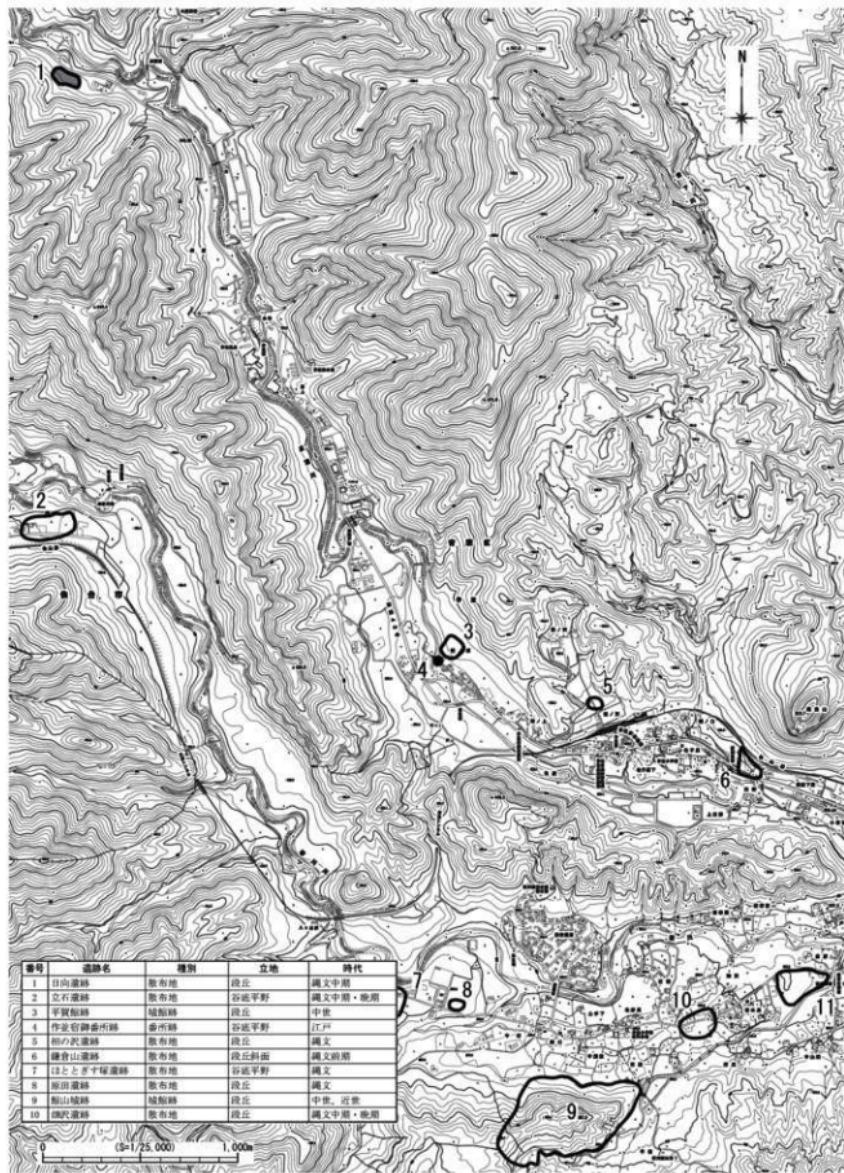
第2節 調査要項

遺跡名	日向遺跡(宮城県遺跡登録番号:21129)
調査地点	仙台市青葉区作並地内
調査期間	令和3年5月12日～6月28日
調査対象面積	約440m ²
調査面積	120.933m ²
調査原因	国道48号線付加車線工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主査 菅原翔太 主事 柳澤 楓

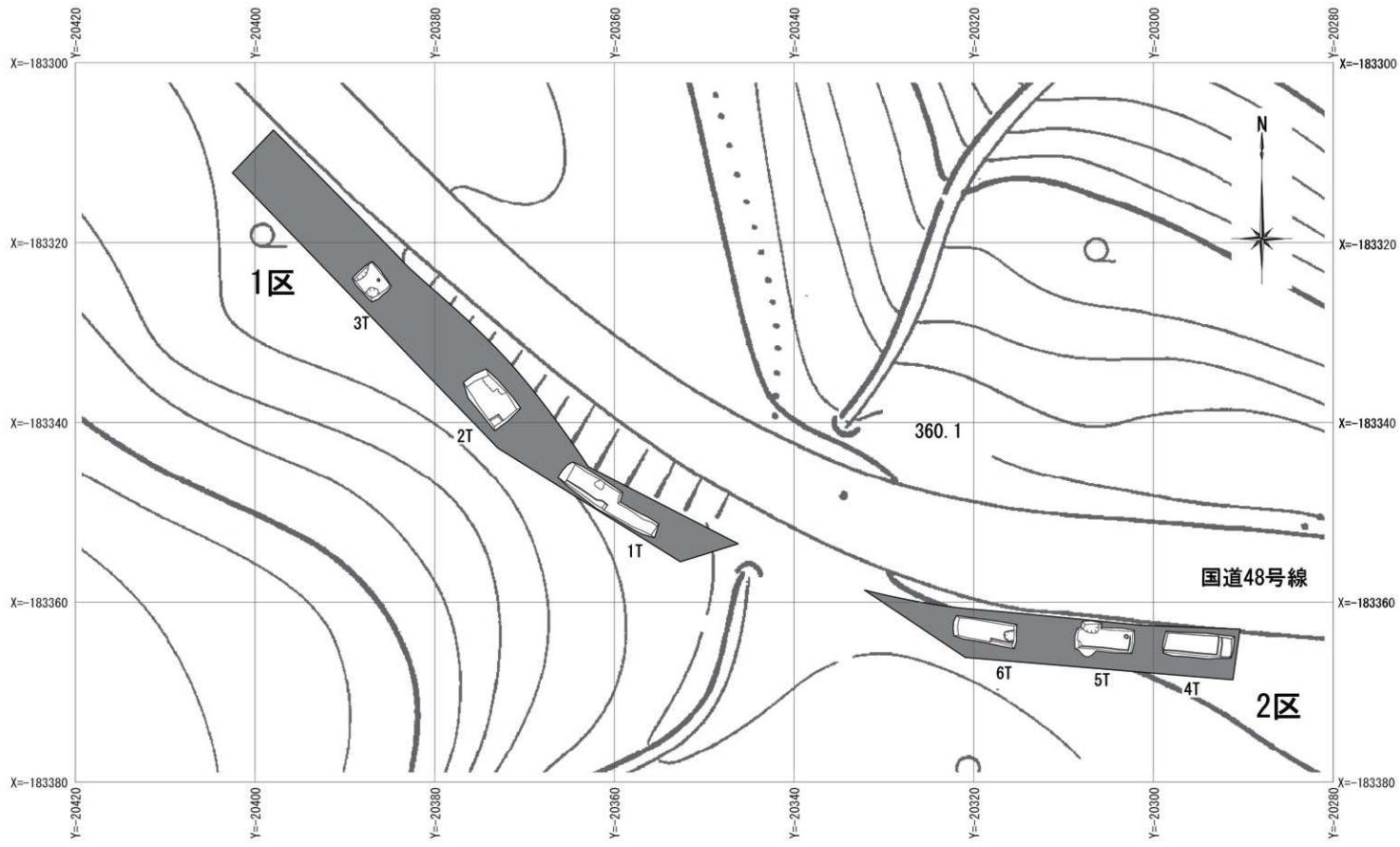
第3節 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

日向遺跡は、仙台市西部の青葉区作並に所在する遺跡で、面積は約8,800m²におよぶ。仙台市中心部からは国道48号線を山形方面に約30km、作並温泉街より北に約1.5kmの地点にある。遺跡は山の緩斜面上に立地し、標高は今回調査を実施した範囲で360m～365m程度である。遺跡の北東部で国道48号線に隣接しており、遺跡の現況は山林である。また国道を挟んでさらに北東側には広瀬川が流れ、関山峠を望む渓谷が形成されている。

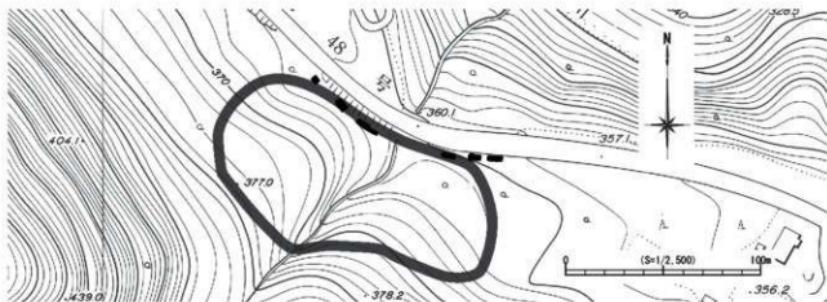


第1図 日向遺跡と周辺の遺跡



調査対象範囲

第2図 第1次調査区全体図



第3図 第1次調査区位置図

2. 歴史的環境

日向遺跡の周辺には、縄文時代の遺跡を中心に、中世・近世の城館跡、近世の番所跡がある。

縄文時代の遺跡は、立石遺跡や相の沢遺跡などがある。しかし、これらの遺跡ではこれまで発掘調査例がなく、いざれも採集などにより、縄文土器や石器などの遺物が発見されている程度である。出土遺物から、ある程度の時期が推測されている遺跡もあり、日向遺跡も大木9式の土器が採集されていることから、縄文時代中期の遺跡とされている。しかしながら、遺構が確認されていないため遺跡の性格などの詳細は不明である。

中・近世の遺跡は、城館や番所跡がある。平賀館跡は河岸段丘上に築かれ、現在は、曲輪、土塁、空堀が残存する。さまざまな伝承や関係史料が存在するものの城主や時期など多くの面で不明とされている。また江戸時代には平賀館跡よりも下位の段丘面に作並宿が形成され、その西端には番所が設けられた。現在では作並宿御番所跡として登録されている。江戸時代にはこれよりさらに西にあった坂下境目番所跡とともに物資の移出入を取り締まっていた。

第2章 調査結果

第1節 基本層序

今回の調査では、基本層を3層、細別で5層確認した。

I 層 : 10YR3/1 黒褐色シルト。腐食土で覆われた表土層である。層厚 10 ~ 70 cm。

II a 層 : 10YR7/6 明黄褐色シルト。II b 層由来で、植物根の影響により I 層を多く含んだ層である。礫を少量含む。
層厚 0 ~ 30 cm。1・3・4・5 トレンチで確認した。

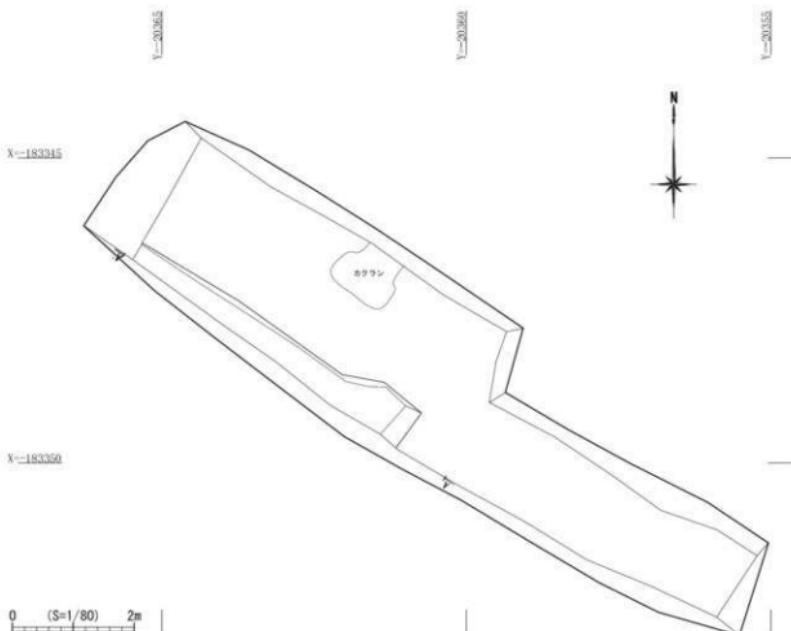
II b 層 : 10YR7/6 明黄褐色シルト。ほぼ均質で、小礫を少量含む。層厚は不明である。1・3・4・5 トレンチで確認した。

III a 層 : 10YR8/6 黄橙色シルト。III a 層由来で、植物根の影響により I 層を多く含んだ層である。礫を多く含む。
層厚は 0 ~ 30 cm である。1・2・6 トレンチで確認した。

III b 層 : 10YR8/6 黄橙色シルト。礫が主体となる層である。色調は II 層にくらべやや明るい。1・2・3・5・6 トレンチで確認した。層厚は不明である。

第2節 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、3・5 トレンチでピットを合計 2 基、3・5・6 トレンチで性格不明遺構を合計 5 基確認した。遺物は、4 トレンチの基本層 II 層上面で縄文土器片が 1 点、5 トレンチと 6 トレンチの間の基本層 II 層上面で石器が 1 点出土した。また、遺構は全調査区で通しの番号を付した。



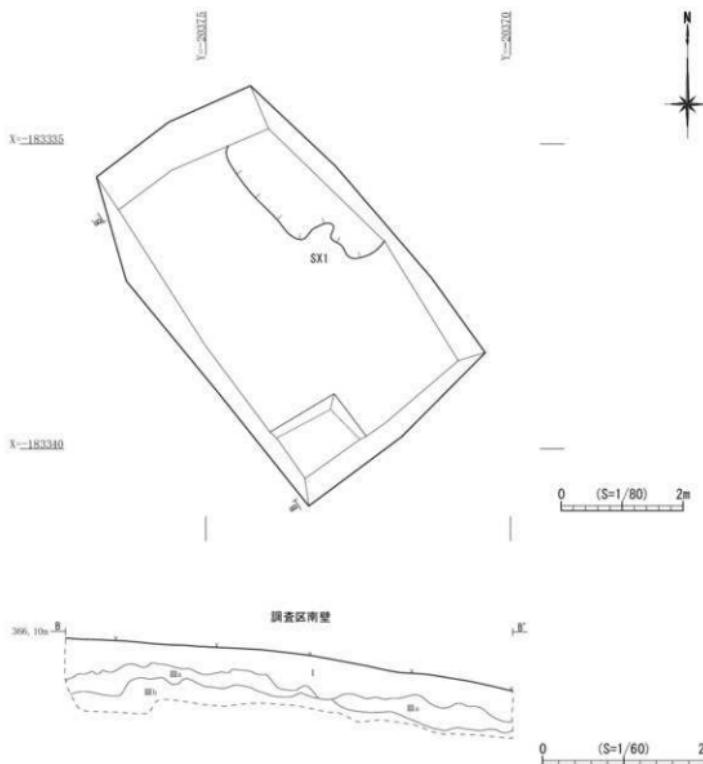
第4図 1トレンチ調査区平面・断面図

〈1区の調査〉

【1トレンチ】

1区に設定した3箇所の調査区の中で、最も東に位置する。基本層III b層上面で遺構確認作業を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

基本層III b層上面までの深さは、GL-0.5 ~ 0.7m程度である。現況は比較的平坦であるが、国道側に向けて緩やかに傾斜している。



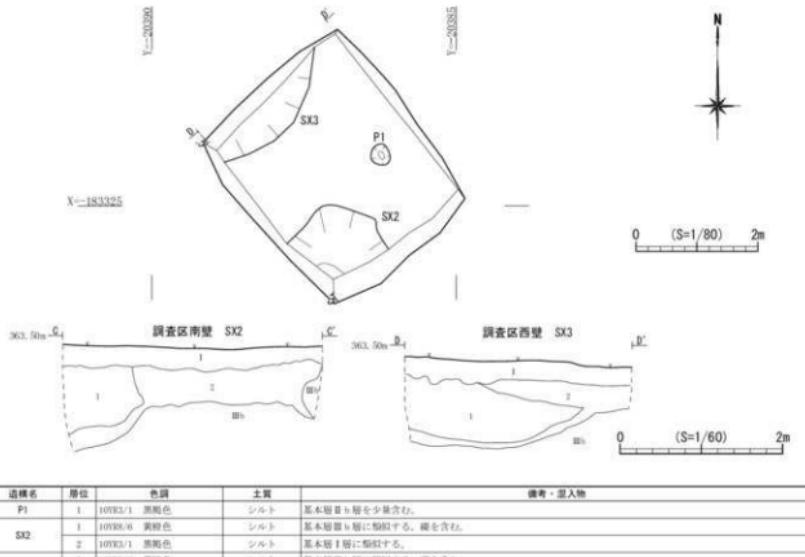
第5図 2トレンチ調査区平面・断面図

【2トレンチ】

1区に設定した3箇所の調査区の中で、中央に位置する。基本層III b層上面で遺構確認作業を行い、性格不明遺構1基を確認した。基本層III b層上面までの深さは、GL-0.7m程度である。調査区は西にかけてやや傾斜している。

(1) 性格不明遺構

SX1 性格不明遺構
調査区の北端で確認した。調査区外の北東側へ広がるため平面形は不明である。規模は南北長1.0m以上、東西長2.8m以上で、深さ0.4m程度である。堆積土は基本層I層に類似しており、単層である。規模が大きいことから、伐根跡または倒木痕の可能性がある。遺物は出土していない。



第6図 3トレンチ調査区平面・断面図

【3トレンチ】

1区に設定した3箇所の調査区の中で、最も西に位置する。基本層Ⅱb・Ⅲb層上面で遺構確認作業を行い、ピット1基と性格不明遺構2基を確認した。基本層Ⅱb層上面までの深さは、GL-0.5～0.8m程度である。調査区は斜面の下部であり、一帯は平坦な平場が広がる。

(1) ピット

P1 ピット

調査区の北東部で確認した。平面形は円形で、直径約40cmである。断面形はU字状で深さ30cm程度で、堆積土は1層である。柱痕跡は確認できなかった。また遺物は出土していない。

(2) 性格不明遺構

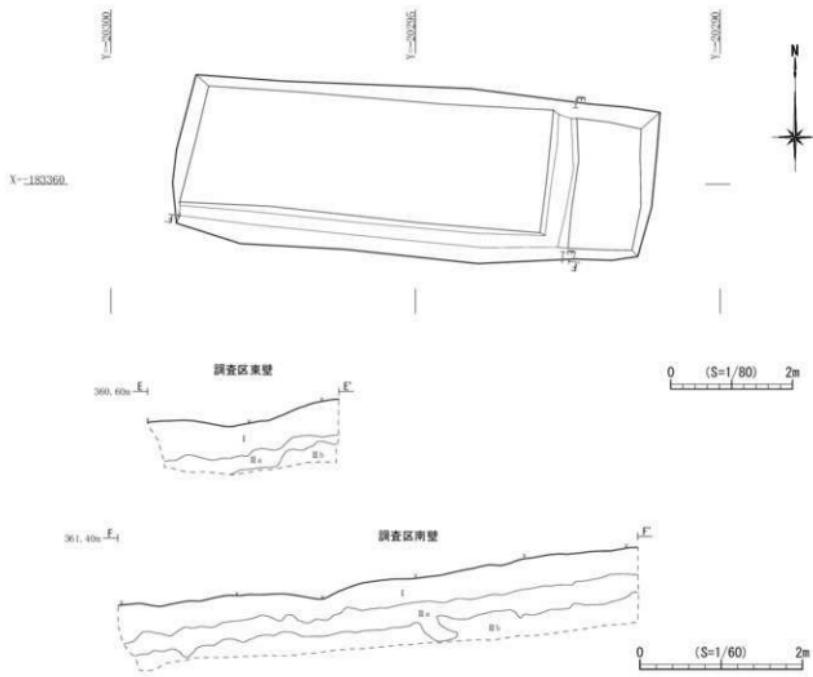
SX2 性格不明遺構

調査区の南側で確認した。遺構のほとんどが調査区外の南側へ広がるため、平面形は不明である。規模は、幅1.6m以上で、深さ1.3m程度である。遺物は出土していない。

SX3 性格不明遺構

調査区の西側で確認した。遺構のほとんどが調査区外の北西側へ広がるため、平面形は不明である。規模は、幅2.3m以上で、深さ1.1m程度である。遺物は出土していない。

いずれも、遺構プランを確認した段階で、基本層Ⅰ層に類似した堆積土が、基本層Ⅲb層に類似した堆積土の周囲を円形の周溝状に巡っており、断面の観察から土層が逆転するように、Ⅰ層類似の堆積土がⅢb層類似の堆積土の下にもぐりこんでいるのを確認したため、倒木痕跡である可能性が高い。



第7図 4トレンチ調査区平面・断面図

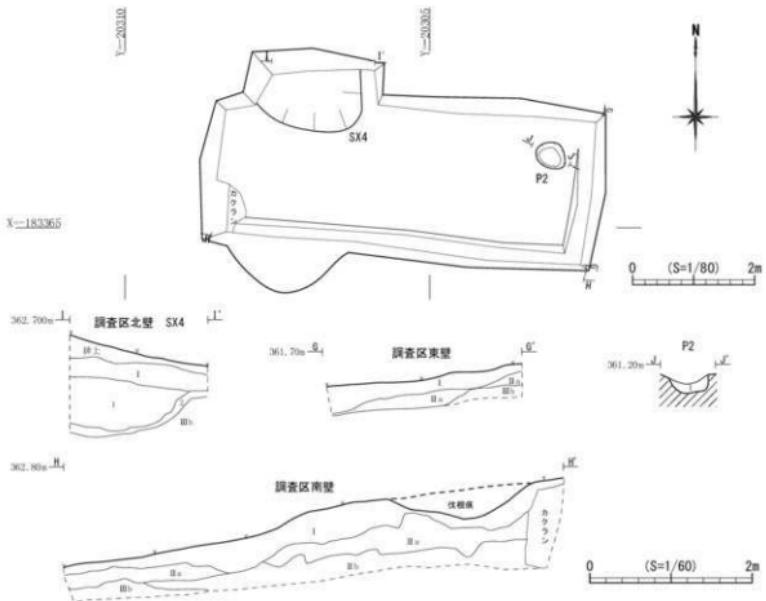
〈2区の調査〉

【4 トレンチ】

2区に設定した3箇所の調査区の中で、最も東に位置する。基本層II b層上面で遺構確認作業を行い、遺構は確認できなかつたが調査区東壁断面の基本層II b層上面から縄文土器片が1点出土した。

基本層II b層上面までの深さは GL-0.7m 程度である。調査区は東へ傾斜している。

土器片が出土したため、調査区の東側を1.2m程度拡張し、遺構・遺物の確認作業を行つたが、遺構は確認されず、遺物も出土しなかつた。



第8図 5トレンチ調査区平面・断面図

【5トレンチ】

2区の斜面上で、設定した3箇所の調査区の中で中央に位置する。基本層II bおよびIII b層上面で遺構確認作業を行い、ピット1基、性格不明遺構1基を確認した。基本層II bおよびIII b層上面までの深さは、GL-0.3～0.8m程度である。調査区は東にかけて傾斜している。

(1) ピット

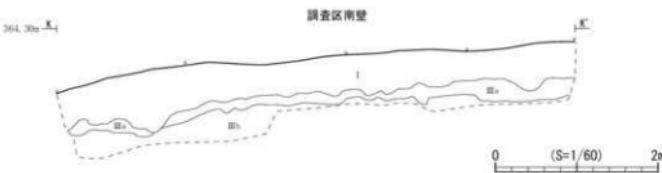
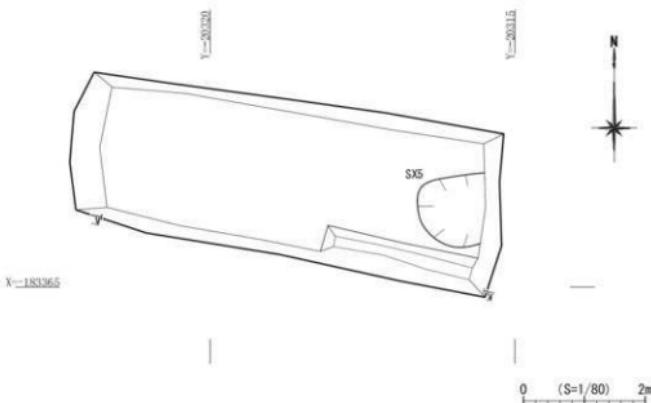
P2 ピット

調査区の北東部で確認した。平面形は円形で、直径約45cmである。断面形は皿型で深さ30cm程度で、堆積土は1層である。柱痕跡は確認できなかった。また遺物は出土していない。

(2) 性格不明遺構

SX4 性格不明遺構

調査区の北西隅で確認した。調査区外の北側へ広がるため、平面形は不明である。規模は、東西長約1.6m、南北長1.0m以上で、深さ0.9m程度である。断面の観察から土層が逆転するように、I層類似の堆積土がIII b層類似の堆積土の下にもぐりこんでいるのを確認したため、倒木痕跡である可能性が高い。遺物は出土していない。



遺構名	用位	色調	土質	備考・里人物
SX5	1	10YR8/6 黄緑色	シルト	基本層Ⅲb層に類似する。蘚を含む。
	2	10YR8/1 黒褐色	シルト	基本層Ⅲb層に類似する。

第9図 6トレンチ調査区平面・断面図

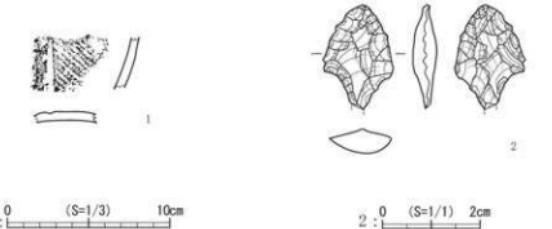
【6 トレンチ】

2区に設定した3箇所の調査区の中で最も西に位置する。基本層Ⅲb層上面で遺構確認作業を行い、性格不明遺構1基を確認した。基本層Ⅲb層上面までは、GL-0.6m程度である。調査区内は比較的平坦である。

(1) 性格不明遺構

SX5 性格不明遺構

調査区の東側で確認した。調査区外の東側へ広がるため、平面形は不明である。規模は、南北長1.2m、東西長1.3m以上で、深さ1.2m程度である。平面上で基本層I層に類似した堆積土が、基本層Ⅲb層に類似した堆積土の周囲に円形の周溝状に巡っており、断面の観察から土層が逆転するように、I層類似の堆積土がⅢb層類似の堆積土の下にもぐりこんでいるのを確認したため、倒木痕跡である可能性が高い。遺物は出土していない。



図版 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			外観	内観	備考	写真 図版
						口径	底径	基高				
1	8-1		II	縄文土器	片持	-	-	-	側面縞文(口縁部～側位平行波線～底 部内を織り出す)	△ガリ	粘土細密 砂粒を含む 縄文後 期	3-1
2	8-1		II	打製石器	石器	2.1	2.4	0.5	有茎石器 先端と基盤は折れている。 3割 厚さ1.2g			3-2

第10図 出土遺物

第3節 出土遺物

今回の調査では、縄文土器片が1点と石器が1点出土している。縄文土器片は、4トレンチの基本層II b層上面から出土し、石器は、5トレンチと6トレンチの間の基本層II層上面で出土した。

縄文土器片は、破片資料のため、詳細は不明である。同遺跡内ではこれまで大木9式の縄文土器が出土していることから同時期である可能性がある。

石器は、調査終盤に5トレンチと6トレンチの間の未調査箇所を部分的に人力で掘り下げ、遺物がないか確認作業を行っている際に出土したものである。有茎の石器で、先端部と基盤は折損している。

第4節まとめ

今回の調査地点は、国道48号線沿いに所在する日向遺跡の北東端(国道48号線隣接部)である。これまで遺跡内で発掘調査は行われておらず、今回の調査が初の事例となる。

発見遺構が全体でピット2基と性格不明遺構5基のみであることから、遺跡の性格など詳細は不明なままである。性格不明遺構は、平面形や堆積土の特徴からいざれも倒木痕の可能性が高い。

出土した遺物は、縄文土器片1点、石器1点とわずかであるが、いざれも遺構からではなく基本層からの出土であった。わずかながらも、遺物が出土したことにより、生活の痕跡を確認することができ、周辺に居住区域があつた可能性が考えられる。

参考文献

宮城町教育委員会 1986 『宮城町の文化財』 宮城町文化財調査報告書第5集

仙台市市史編委員会 2006 『仙台市史 特別編7 城館』



1. 調査対象地遠景（北から）



2. 調査対象地遠景（東から）



3. 現地確認風景（西から）



4. 調査区設定状況（西から）



5. 1トレンチ調査完了状況（西から）

写真図版 1 日向遺跡第1次調査（1）



6. 2 トレンチ調査完了状況（西から）



7. 3 トレンチ SX2・SX3 確認状況（北から）

写真図版 2　日向遺跡第1次調査（2）



8. 1 トレンチ南壁断面①（北から）



9. 1 トレンチ南壁断面②（北から）



10. 2 トレンチ南壁断面（北から）



11. 2 トレンチ東壁断面（西から）



12. 3 トレンチ SX2 調査状況（北から）



13. 3 トレンチ SX3 調査状況（南東から）



14. 作業風景



15. 重機掘削作業風景

写真図版3　日向遺跡第1次調査（3）



16. 4トレンチ調査完了状況（西から）



17. 4トレンチ調査区南、西壁断面（北西から）



18. 4トレンチ調査区西壁断面（南東から）



19. 4トレンチ南側拡張部調査状況（北西から）



20. 作業風景

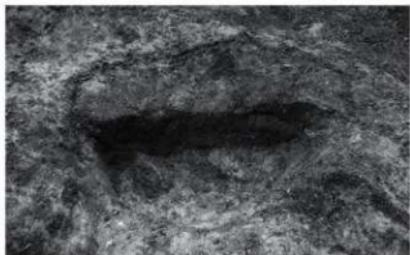
写真図版4　日向遺跡第1次調査（4）



21. 5 トレンチ II b・III b 層上面（東から）



22. 5 トレンチ P2 検出状況（北東から）



23. P2 半裁状況（西から）



24. 5 トレンチ北東拡張部 SX4 確認状況（北西から）



25. 5 トレンチ SX4 調査状況（南から）

写真図版 5 日向遺跡第1次調査（5）



26. 6 トレンチ SX5 確認状況（北東から）



27. 6 トレンチ南壁断面（北から）

28. 6 トレンチ調査完了状況（東から）

写真図版 6 日向遺跡第1次調査（6）



写真図版 7 出土遺物

報告書抄録

仙台市文化財調査報告書第496集

日向遺跡

第1次発掘調査報告書

2022年3月

発行

仙台市教育委員会

仙台市青葉区上杉1丁目5-12

仙台市役所上杉分庁舎10階

文化財課 TEL 022 (214) 8894

印刷

株式会社 仙台紙工印刷

仙台市宮城野区芳竹三丁目1-14

TEL 022 (231) 2245㈹
